

The39th

Passenger Cars & Motorcycles

TOKYO MOTOR SHOW 2005



News

vol.

18

平成17年11月6日

第39回東京モーターショー2005

Passenger Cars & Motorcycles
乗用車・二輪車

"Driving Tomorrow!" from Tokyo みんながココロに描いてる、くるまのすべてに新提案。

世界の自動車技術が一堂に——海外部品メーカー



東京モーターショーには、アジア・大洋州、アメリカ、欧州など、世界のさまざまな地域の企業が毎回、数多く出展している。今回は海外から22社の部品メーカー、5カ国政府が参加。バラエティに富んだ展示ブースを構えており、部品エリアはいかにも大規模国際エキシビジョンらしい、にぎやかな雰囲気包まれている。

グローバル化、ボーダーレス化が進んでいる自動車産業では、国境を越えての部品調達はもはや普通のこと。日本の部品メーカーが世界のさまざまな国に開発・生産拠点を置いているのと同様、海外の部品メーカーも日本に拠点を置くケースが増えている。さらには日本メーカーと資本提携して国内メーカー同様の活動を行っている企業も出てきており、なじみの外資系企業名は日に日に増えている。

出展者の顔ぶれは多彩だ。自動車部品総合メーカーのボッシュ、足回り部品を手がけるビルシュタイン、電装品を主力とするフィリップス、照明装置で有名なヘラーなど、日本でも名前が一般に広く知れ渡っているメーカーから、自動車業界では有名であるものの、日本のエンドユーザーにはあまり知られ

ていないメーカーまでさまざま。

ブースを見回すと、日本の自動車メーカーや部品メーカーに対する技術提案、環境・安全問題に関するトータルソリューションの提案など、具体性のあるものが目立つ。ブランドイメージ向上を目的とした、ユーザーに対するコーポレートイメージのPRにも各社熱心だ。

政府・業界団体出展ブースは、B2B（企業間取引）の支援が主な目的。日本企業とコンタクトを取りたいが、東京モーターショーに単独で出展するだけの規模を持たない企業にとって、政府出展ブースはきわめて重要な商談の場になる。今回のショーでも重要なビジネス案件についての話し合いが数多く持たれたという。

今後、自動車業界はさらにグローバル化が進むとみられている。個性豊かな世界各国の部品メーカーが日本車とどう関わっているのか、日本でも人気の高い欧米のクルマのベーステクノロジーはどのようなものなのか——世界の自動車事情をも見渡せる海外部品メーカーのブースは、見ていただけでも面白さ抜群である。

高性能車向け技術を体感



ボッシュの技術力の象徴、ディーゼル搭載のベンツ「CLK320CDI カブリオレ」

北ホール内のメイン通路に面した**ボッシュ**ブース。その一角に、同社の排ガス浄化技術が採用されているメルセデス・ベンツ初のディーゼルオープンカー「CLK320CDIカブリオレ」を展示し、技術力の高さをアピールしている。ほか、ハイブリッド車用モーターや半導体、ITS関連商品などを多数展示している。

エンジン部品大手の**マレー**は新鋳造法を用いた軽量・高強度な市販車用、レース用ピストンを展示。コスワーステクノロジー改めマレーパワートレイン製のオーディRS8の高出力V8にはエンドユーザーも興味深げ。



F1用ピストンでも有名なマレー

特殊鋼や精密加工に高い技術力を持つ**シェフラーグループ**は、ベアリング、フライホイール、クラッチなどを展示。クラッチは摩耗してもペダルが重くならない独自技術が使われたもの。2ペダル式MT向け部品も注目を集めていた。**シーメンス****VDOオートモーティブ**はハイブリッドカー用のエネルギーマネジメントシステム、ブレーキバイワイヤシステムなどの電装品をメインに出品している。



シェフラーグループの技術がBMWとヒュンダイの最新エンジンに



マイクロハイブリッドなど新技術を展示するヴァレオ

ヴァレオは環境技術をアピールする展示内容。目玉は新型のアイドリングストップシステムを搭載した「マイクロハイブリッド」エンジンだ。

ロイヤル・フィリップス・エレクトリック、**ヘラー**、**オスラム**など電装品メーカーは、それぞれキセノン、LEDなどを使った新型ヘッドランプを展示。**ヘラー**のコンピュータ制御を使ったAFS配光（走行状況に合わせてアクティブに配光特性を変化させる）システムのコンパクトさは見もの。



日本でもおなじみの電装品メーカー、ヘラー



ヘッドランプやテールランプなどのアセンブリユニットを展示するオスラム



フィリップスブースではランプの色温度比較など楽しいデモを見ることができる

ブレーキ大手の**ブレンボ**は、ボルシェ、フェラーリなどの高性能スポーツカー向け製品「カーボンセラミックブレーキ」を、**ビルシュタイン**はボルシェ向け新世代可変型サスペンション「PASM」が展示の目玉だ。

西ホールにはシートメーカーの**レカロ**が出展。カーボンフレームを用いた高級モデル「SP-X」を出品。また同グループの**カイパー**はランドローバー向けOEMシートのフレームを参考出品している。



ビルシュタインは新世代可変サスを展示



ブレンボの高性能ブレーキが注目を集める



人気のカーナビ、幕張に集結!

Parts Zone

カーアクセサリーのなかでも大人気のカーナビ。道案内をしてくれる便利な道具、車内をマルチメディア化する娯楽装置、遠回りや迷い道による燃料無駄遣いを防ぐ環境対応技術、また次世代技術であるカーコンピューティング向けデバイス——さまざまな顔を持つカーナビがモーターショー会場を華やかに飾る。

SANYO

ポータブルタイプのカーナビ「ゴリラ」が発売10周年を迎えた三洋電機は、歴代「ゴリラ」や新鋭のHDD（ハードディスク）搭載機を展示。また運転席と助手席で異なる画面を見ることができ2画面ディスプレイも参考出品している。このほかブースでは、同社のテクノロジーを駆使した3Dシアターで次世代技術を紹介している。



KENWOOD

スポンサーシップを結ぶマクラーレンメルセデスのF1マシンが目玉のケンウッドブース。機械操作が苦手な人でも簡単に操作できるよう、インターフェースを徹底的に工夫した「スマートナビ」を出品している。またオーディオでは、ハイパワーな1,600Wアンプなど、カーオーディオの本場アメリカを思わせるモデルを展示。



ALPINE

アルパインブースで人気が高いのは、同社のカーナビ、オーディオ技術をトータルで体験できるマシン「モバイルメディアビークル」。人気のポータブルオーディオ「iPod」の最新作、ムービータイプにいち早く対応。「iPod」のメモリーから映像データを読み出し、車内でビデオ鑑賞ができるという新機能を、大迫力サウンドで体感。



Carrozzeria

パイオニアはカーナビのエントリーモデル「楽ナビ」、上位モデル「サイバーナビ」の市販モデルを大量に展示。「楽ナビ」はラインナップの充実がはかられており、低価格モデルだけでなく、HDDを搭載したミドルレンジモデルも登場している。ブースにはカーナビやオーディオを体験するシアターも設置されている。



Clarion

クラリオンは双方向通信により、「iPod」をカーナビ側から操作できる「DVD/ワイドフインチAVセンターユニット」、および無線通信技術によって「iPod」をケーブル接続しなくても、車内に持ち込むだけでカーナビとリンクできる「Bluetooth iPod」の2機種をワールドプレミア。高いオーディオ技術による音質の良さも自慢。



Panasonic

松下電器産業の目玉は、車載タイプの地上波デジタルテレビチューナーとワイドVGAモニターを組み合わせたAVナビゲーション。ワイドVGAモニターは通常のカーナビ用液晶と異なり、D2と呼ばれる高精度デジタルハイビジョン規格にも対応する。小型ながら映像の美しさや解像度は家庭用デジタルテレビを思わせるレベル。



ECLIPSE

AV、ナビ両機能を1台に実装する「AVN」シリーズを主力とする富士通テン。今回の目玉は、運転席からはカーナビ画面、助手席側からはテレビ画面と、覗きこむ角度によって違う映像を一つの液晶画面に表示させる「DUAL AVN」だ。フインチワイドモニターを持ち、輸入車にも装着可能な1DINサイズの完結型「AVN」も出品。



Xanavi

ザナヴィ・インフォマティクスは、偏光グラスなしでも自然な3D映像を見ることができる「DFD 3D液晶ディスプレイ」を使用し、カーナビの地図を立体表示させるシステムを参考出品。バードビューを世界で初めて実用化したメーカーとして、立体表示へのこだわりをアピールする。北米、欧州、中国仕様カーナビも展示。



政府出展コーナー

Parts Zone

今回のモーターショーに政府出展を行ったのは5カ国。おなじみのカナダ、ドイツ、アメリカ、スウェーデンに加え、あらたに自動車産業の新興勢力であるマレーシアが登場し、日本の自動車業界へのPRを行っている。主目的であるB2Bはもちろん、ユーザーにもそれぞれの国の自動車技術を知ってもらおうと、楽しい展示を行っている。

アトランティック・トレード・パビリオン

アトランティック・トレード・パビリオンは、アメリカ政府が中小部品メーカーの後援を目的に設置しているブース。今回は工具メーカーのスナップオン社での参加となった。アメリカの星条旗をあしらったブースデザインやクルマなどの模型の展示は、子供たちに人気だ。



ドイツ自動車工業会 (VDA)

ドイツ自動車工業会ブースは、クルマの形をあしらったデザイン。変速機世界大手のZF、オープンカーのルーフシステムを得意とするコーチビルダーのカルマンなど、高い技術力を持つ選り抜きのメーカーを集め、ドイツ自動車工業のレベルの高さをアピールしている。



カナダ連邦政府

70年代より東京モーターショーにブースを構え、政府出展のなかでも最古参のカナダ連邦政府。多くの自動車メーカーがカナダに生産拠点を構えていることからわかるように、カナダは技術開発力、労働力ともきわめて高レベル。日本とのパートナーシップを深める構えだ。



マレーシア政府

自動車産業の育成を図っているマレーシア政府が今回、東京モーターショーに初出展。日本への部品輸出といった実務面より、まずは同国のメーカーが次第に地力をつけてきているという現状を知ってもらうことを意図している。また、日本企業によるマレーシアへの投資喚起も狙う。



スウェーデン大使館

スウェーデン大使館は、同国の自動車部品メーカー、オートクンブ・カップーストリップが中心となっている国際アライアンス、キュープロ・プレースの紹介を行うブースを構えている。熱伝導率特性が良好な銅を使用したインタークーラーやラジエーターなどの熱交換部品を展示している。



JAPIA ブース 中小企業の技術力示す JAPIAブース

日本自動車部品工業会 (JAPIA) ブースには、同会会員企業のうち6社が製品を展示している。大野ゴム工業は樹脂製品など、やまと興業はパイプ加工製品など、ミドリ安全とホクヨーは自動車内装用本革、シグマは非接触検査装置、宮本警報器はリレー、ホーンスイッチを出品。製品にはそれぞれ、独自のノウハウが盛り込まれており、中小企業の技術力の高さを示している。



みんなで考えよう クルマの税金

- コーディネーター・進行アシスト: 御堀直嗣 モータージャーナリスト
 ■進行アシスト: 小山好子 フリーアナウンサー
 ■パネリスト: テリー伊藤 演出家
 宮田佳代子 フリーキャスター
 石原伸晃 衆議院議員
 杉山雅洋 早稲田大学大学院教授
 ■主催: 自動車税制改革フォーラム

日本の自動車税制の問題点を議論するこのフォーラムも今年で3年目。5ヵ年計画の中間点を迎え、パネルディスカッションの合間に何度も来場者から手元に用意された押しボタンでアンケートに答えてもらうアナライザーシステムと、来場者の意見およびパネリスト見解を踏まえた上で、ユーザーが理想とするクルマの税金の「中間提言書」を模索する、という2つの新しい試みを導入して行われた。

まず、テリー伊藤、宮田、石原、杉山の各氏がフォーラム参加についてコメント。その後、「仮に180万円の新車を購入して、3年間走行すると、どれぐらい税金を払っていると思うか」の設定で会場アンケートを実施。その結果、来場者総数275人のうち、「約15万円」と答えた人が16人、「約30万円」が94人、「約50万円」が



165人となった。実際には52万4,100円もかかる。これをベースに今度は、クルマの税負担感について

「高すぎる」「適当である」「低すぎる」の3択で聞くと「高すぎる」が233人(全体の89%)にのぼった。

次にクルマ税が9種類もある不思議、自動車取得税と消費税との二重課税、ガソリン税での消費税上積み、海外に比べて日本のクルマ税がなぜこんなに高いのかについて議論。

さらにクルマの税金の使われ方について、クルマユーザーのみが負担している道路特定財源の余り分が一般財源化や環境税へ転用されようとしている現状を解説。その上での会場アンケートで、「余りが生じるなら暫定税率を引き下げるべき」との回答が207人(87%)となった。

こうしたアンケート結果とパネリストの意見を踏まえ、最後に御堀氏が「道路特定財源を転用するのなら、元々の税率に戻すべき」といった内容の中間提言をまとめて賛同を得た。



クルマは世に連れ、CMソングに連れ.....♪♪♪



BMG JAPAN、初の自動車CMソングCD

あのCMソングのメロディーが流れると、懐かしい日々がよみがえり、憧れのクルマのシルエットがぼんやりと頭に浮かんでくる。レコード会社のBMG JAPANでは、自動車CMの歴史が詰まった初のオフィシャル・コンピレーションCDをリリース。会場内のオフィシャルグッズコーナーでも絶賛発売中。

80年代初めのトヨタ「クレスト」のCMソングとして流れたホズ・スキヤグスの「トワイライト・ハイウェイ」をはじめ、サンタナの「哀愁のヨーロッパ」(三菱・ランサー)、マイケル・ボルトンの「男が女を愛するとき」(日産・ローレル)、最近ではトヨタ「ヴィッツ」のマルーン5の「サンデー・モーニング」まで全18曲を収録している。



幕張メッセから生放送 TOKYO FM 移動スタジオ

通常、渋谷・スペイン坂スタジオで行われる80.0MHz、TOKYO FMのラジオ番組「so good」が東京モーターショー会場に出張、生放送を行った。パーソナリティの荘口彰久氏がリスナーと直接ふれあう場面も。また、DJを目指す新人たちがメッセ内で生トークを披露していた。



来場者に

聞く

親子で楽しめるイベントも多くご満悦

漆畑美紀子さん(専業主婦)と家族



川崎市からマイカーの「マジェスタ」を駆けて「海はたる」経由で2人の子供とやって来た漆畑さん家族。真っ先に飛び込んだのが「トミカコーナー」のある「こども広場」。長男の脩平君(小3)お目当てのRCカーが売り切れでがっかりしたが、二輪車ブースでは、長女のみなみちゃん(小1)と一緒に大きなバイクにまたがって上機嫌。外国車ブースでは、洒落たホイールデザインのフィアット車に釘付け。その運転席に乗っては無邪気にハンドルを握る場面も。「最初は子供たちが退屈しないか心配していましたが、世界中の珍しいクルマやバイクに触れられたり、子供も楽しめるイベントも多く思い切って連れてきてよかった」と、漆畑さん親子もご満悦。

VIP来場 2005年11月5(土)

衆議院議員 石原 伸晃 法務委員長

今日のイベント(予定) 2005年11月6日(日)

* 少年少女モーターサイクルスポーツスクール

10:00~12:10 } (中央休憩ゾーン 特設会場)
 14:00~16:10 }

* トラフィック戦隊アンゼンジャーショー

10:30~11:10 } フェスティバルパーク
 13:00~13:40 } (西休憩ゾーン)
 15:30~16:10 }

* 白バイデモ

12:00~12:30 } フェスティバルパーク
 14:00~14:30 } (西休憩ゾーン)

* クリーンエネルギー車同乗試乗会

10:30~16:30 } 特設専用コース
 (幕張海浜公園内 メッセ周辺公道)

※天候等の都合により予定が変更になる場合があります。



ON DEMAND PUBLISHER C-51N



東京モーターショー2005へご来場ありがとうございました。

開催期間中、このモーターショーニュースは一日5,000部、トータル90,000部、コニカミノルタのON DEMAND PUBLISHER C-51Nでプリントされました。

コニカミノルタ オン・デマンド・プリントシステムは、必要な時に必要なだけ、さまざまなニーズに柔軟に対応。

The essentials of imaging

コニカミノルタ ビジネスソリューションズ株式会社
 ODI事業部
 TEL 03-5205-7820
 Email odi-info@bj.konicaminolta.jp
 URL http://www.ebook-print.com



11月5日の入場者数 **119,500**
 入場者数累計 **1,394,200**

東京モーターショーニュースVol.18 2005年11月6日発行

発行所 社団法人 日本自動車工業会 広報室
 〒105-0012 東京都港区芝大門1丁目1番30号 日本自動車会館
 TEL.03-5405-6119 FAX.03-5405-6136
 WEB SITE www.tokyo-motorshow.com

